

平和の尊さ

戦後70年

終戦70年の節目に合わせ、戦争の記憶の風化を防ごうと、県内の学生など若者が中心に企画したイベント「語り継ぐ戦争」が17日、笠間市旭町の筑波海軍航空隊記念館（同隊旧司令部庁舎）で開かれ、演劇などの工夫を凝らした手法で、訪れた人たちに命や平和の尊さを訴えた。

イベントは、同館運

笠間で学生ら企画

語り継ぐ

営の関係者や戦争について調査・研究する大学生や専門学校生約10人が中心となり昨年12月に立ち上げた「語り継ぐ記憶実行委員会」が主催した。

演劇は、ある家族の戦中戦後の姿を描いた「一つの花」。戦地に赴く父が幼い娘に手渡した1輪のコスモスが自宅の庭で大切に育てられ、父が戦死した後、庭いっぱい咲き誇る。実行委の筑波学院大生が企画し、脚本や音響を担当した。

劇や朗読、感情込め託す

（物語の）コスモス。平和な日常の重みを訴えたかったと話した。

このほか、地元の小学生たちが戦争に関する物語を感情を込めて朗読したほか、筑波大生が戦争遺跡の保存の重要性を訴える論文を発表した。



平和の大切さを訴えた劇「一つの花」 笠間市旭町

参加した笠間東中2年の水越日向子さん（13）は「戦争は傷つく人が多いと感じた。幸せな日々が続くよう、戦争のことを伝えていきたい」。来館者の笠間市の鯉淵庸朗さん（85）は「水戸空襲や学徒動員などを経験した。戦争は二度とあってはいけない。若者たちが語り継ぐ試みは尊い」と話した。（今井俊太郎）

